



書  
集

5  
4395



5  
4395

門 5  
號 4395  
卷

大  
字

李之  
好  
之

三  
羅  
山  
書  
畫

昭和九年  
七月四日  
購末

9-7-4  
作



Red square seal impression with Chinese characters, likely a collector's or artist's mark.

Small handwritten mark or signature in the bottom center of the left page.

Small handwritten mark or signature in the bottom center of the right page.

Small handwritten mark or signature on the right page.

松の尾

松平

大友



松の尾

松平

大友

松平

大友

松平

大友

松平

大友

松平

大友

松平

大友

松平

大友



しらきつゝおのりての月

作

あつゝおのりての月

作

あつゝおのりての月

作

あつゝおのりての月

九

あつゝおのりての月

作

あつゝおのりての月

里

あつゝおのりての月

五

あつゝおのりての月

作

あつゝおのりての月

山

あつゝおのりての月

作

あつゝおのりての月

可

あつゝおのりての月

作

あつゝおのりての月

古

あつゝおのりての月

母

あつゝおのりての月

有

あつゝおのりての月

二

ばかちあまのうらたてあまの  
 物籠くもくまきし柳の如  
 けりあまのうらたてあまの  
 出代のあまのうらたてあまの  
 御もくもくあまのうらたてあまの  
 こもくもくあまのうらたてあまの  
 夕のあまのうらたてあまの  
 風あまのうらたてあまの

三子  
 之氣  
 象  
 重  
 楽  
 楽  
 亦  
 竹

カマの神

雨降あまのうらたてあまの  
 衣之あまのうらたてあまの  
 花あまのうらたてあまの  
 こもくもくあまのうらたてあまの  
 けりあまのうらたてあまの  
 御あまのうらたてあまの  
 風あまのうらたてあまの

西京  
 地  
 魚  
 二  
 古  
 休  
 何  
 高  
 松







雲よりあらし命よまらせく空の布  
 嵐松  
 雲のあらし秋の山もまじり  
 古塔  
 雲のあらし晴れて眺む好の標  
 物士  
 雲のあらし木のまじり致き少  
 雲山  
 雲のあらし木のまじり  
 林松  
 朝雲やまじりよめまじり  
 高和  
 杖のあらしおそくまじり  
 月  
 以てあらし松の標よし  
 秋の風  
 松二

朝らうや妙の雲よりまじり  
 文松  
 雲のあらしおそくまじり  
 松松  
 何のあらしおそくまじり  
 林松  
 雲のあらしおそくまじり  
 山松  
 雲のあらしおそくまじり  
 林松  
 雲のあらしおそくまじり  
 相高  
 雲のあらしおそくまじり  
 林松  
 雲のあらしおそくまじり  
 林松



千のうらさむし動車の大根行

表 西賞

志のうらさむし枯る屋敷の

出石

山草のうらさむし枯る

十九 寿色

山草のうらさむし枯る

松雪

不二の枯るまきまきや

石丸

不二の枯るまきまきや

松仙

四五編のうらさむし

下 田考

四五編のうらさむし

田考

ひのうらさむし

涼月

ひのうらさむし

酒 友

ひのうらさむし

赤身

ひのうらさむし

梅香

ひのうらさむし

大 水

ひのうらさむし

赤身

ひのうらさむし

石 石

ひのうらさむし

梅香

乙

花は信をさしふる藤をまきまじり 竹山

空をくぐり編むのやみり出せ 甲斐 子國

舟はもよほりけりゆく 三浦

たぬきの初を雪の世子は 伊豆 花月

うらやましいとてあはれんや 子麻

積るやよる心影の人を 竹藪

ぬくまをいそぐらん 杉原 杉原の陣

細くわづらひあはれや 神田

甲斐の山にうらやまの娘めしり 芥子

子供はあはれんていねい 在每

舞をうたへてあはれん 其原

うらやまをいそぐらん 梅田

七浦のあはれん 赤志

市の娘はあはれん 笠原

おきくはあはれん 松原

花はあはれん 竹二

大

三秋わあゝ志々々なひまれ 休二

市橋をくくり道尾の垣 春 休

碓礮儀をあらぬ赤の巻巻 俗 休

咳の〜と〜と〜と〜と 二

波志の巻巻と〜と〜と〜と 休

何々の巻巻と〜と〜と〜と 休

はさ〜と〜と〜と〜と 二

ハハハハハハハハハハハハ 休

床々の巻巻と〜と〜と〜と 休

袖の〜と〜と〜と〜と 二

世・廊の〜と〜と〜と〜と 休

坪の〜と〜と〜と〜と 休

甲〜と〜と〜と〜と〜と 二

首・傍志の〜と〜と〜と〜と 休



千あゝと新のまゝめ公縁片  
 障目のまゝあるまゝをそとて  
 能も所をかゝる所をしく  
 隔くもを不御所の縁を  
 新御まゝのまゝの縁ひき  
 小をひき小割て居る子供ら  
 和のまゝのかりに羅

二 片 字 二 字 二 字 二 字

可神と結んて契のくわく  
 一のまゝ蔵へハ望つある  
 口敷をまゝて字種を片  
 まゝのまゝのまゝの縁ひ  
 糸おとすゝのまゝのまゝ  
 糸をまゝのまゝのまゝ  
 風をのまゝのまゝのまゝ  
 空をのまゝのまゝのまゝ

二 片 字 二 字 二 字 二 字 二 字

博覧のうらやまをみるの  
 生海の海をさきしつるよ  
 子田うらやまのうらやま  
 石うらやまのうらやま  
 のうらやまのうらやま  
 母候うらやまのうらやま

二 三 二 三 二

申候





